

# 油等排出事故発生時における 対応等について

海上保安庁  
警備救難部環境防災課長  
河村 俊信



## 海洋汚染・海上災害の防止

大規模油等排出事故への対応



危険物火災への対応



地震災害への対応



火山噴火への対応



## 海洋環境保全指導・啓発活動

海洋環境保全講習会



訪船指導



海洋環境保全教室(漂着ゴミ分類調査)



海洋環境保全教室(紙芝居)



### 海洋汚染防止法に基づく油等の防除体制 (基本的な考え方)

➤防除措置は、原因者(船舶所有者等)の責任及び負担において行う。

⇒海洋汚染防止法における防除措置の義務付け、措置命令の発出

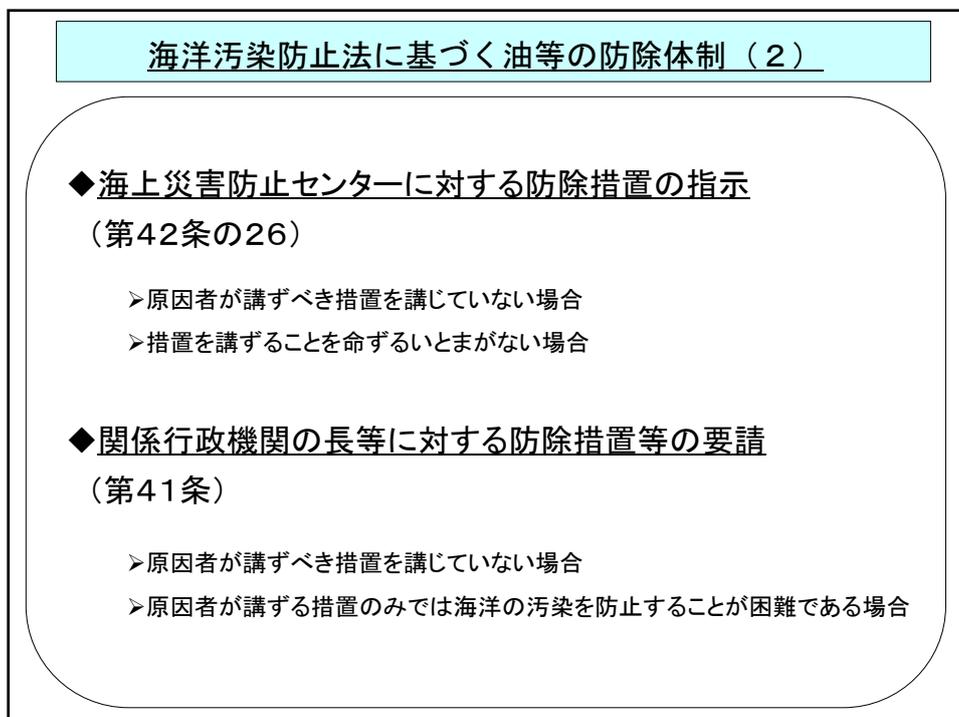
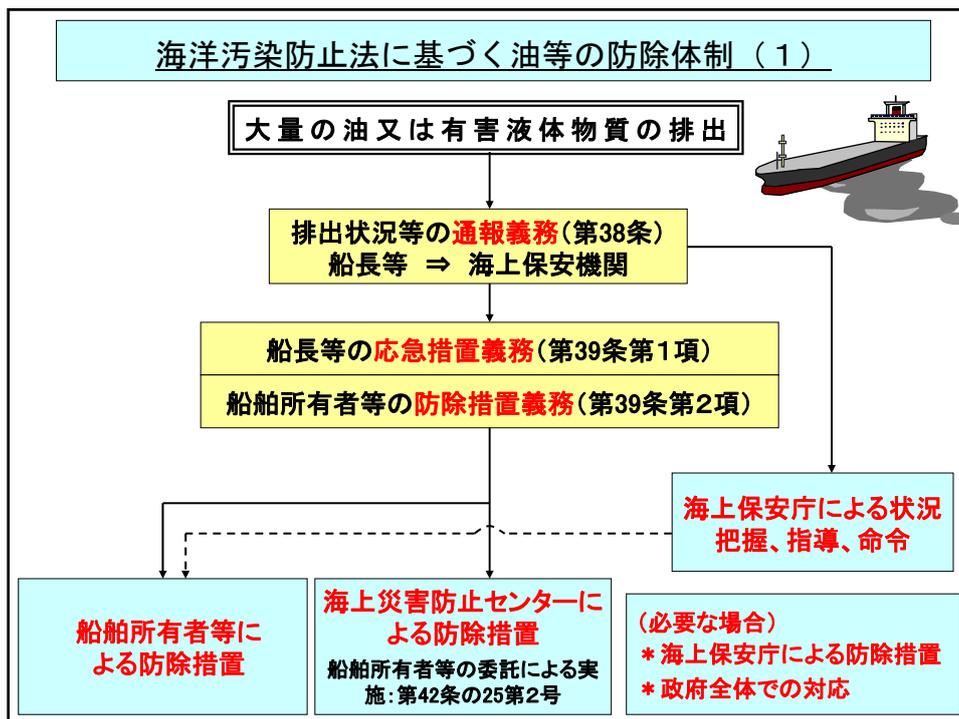
➤原因者による防除が確実に行われるよう、官民は条件整備を行う。

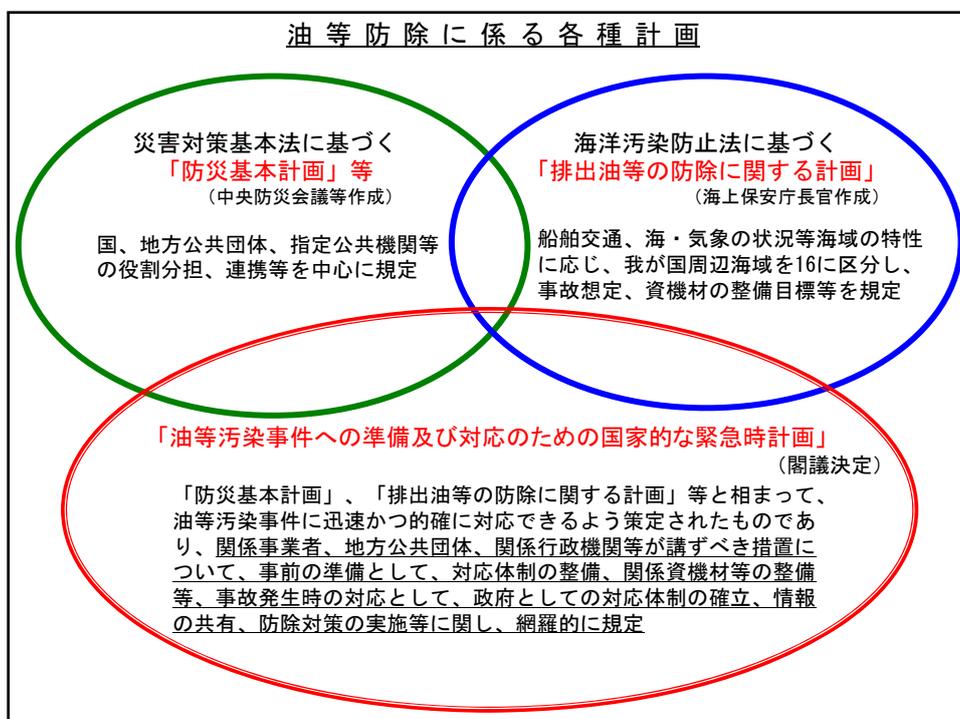
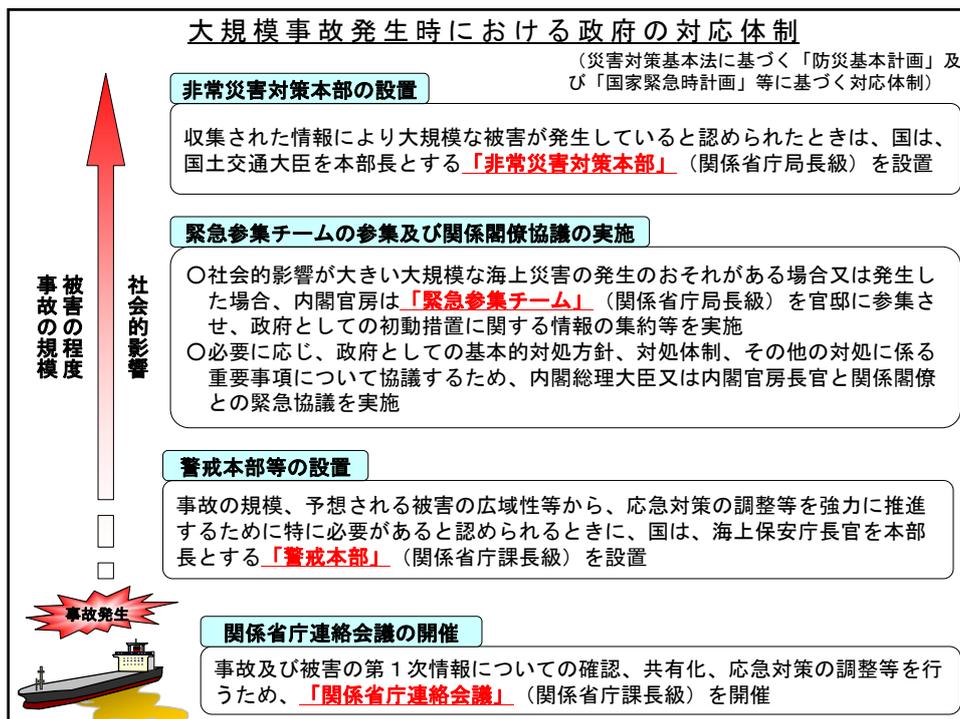
⇒PI保険の強制

⇒国際油濁基金への参加

⇒防除資機材の備え付け

⇒共同防除組織たる海上災害防止センターの設立





## 海上保安庁の対応体制について

**船艇 …………… 458 隻**  
(平成21年9月1日現在)

内訳 警備救難業務用船 421隻  
 海洋情報業務用船 13隻  
 航路標識業務用船 21隻  
 実習船 3隻

**航空機 …………… 73機**  
(平成21年9月1日現在)

内訳 飛行機 27機  
 ヘリコプター 46機

**急行**

**急行**

**急行**

**対応**

**機動防除隊**

## 海上保安庁保有の主な油防除資機材

平成22年1月現在

- ◆ 高粘度油対応回収装置(LSC、能力:25kl/h) × 10基
- 大型真空式回収装置(能力:60kl/h) × 1基
- ★ 大型油回収装置関連機材(アウトリガー、Vスリーブ) × 3基
- 外洋型オイルフェンス(長さ:300m) × 3基
- 大型オイルフェンス(長さ1,000m) × 5基
- GT-185(能力:65kl/h) × 2基
- ▲ 空中油処理剤散布装置(TC-3) × 4基
- ⊖ 空中油処理剤散布装置(オイスビルファイター) × 4基

**LSC (種内、秋別)**

**空中油処理剤散布装置 (網罟)**

**空中油処理剤散布装置 (圓錐)**

**外洋型オイルフェンス (圓錐)**

**空中油処理剤散布装置 (新潟、横浜)**

**空中油処理剤散布装置 (福岡)**

**大型油回収装置関連資材 (新潟)**

**外洋型オイルフェンス (新潟)**

**LSC (伏木、福井)**

**空中油処理剤散布装置 (舞鶴)**

**LSC (横浜)**

**大型オイルフェンス (四日市、堺、水島、宇都)**

**LSC (高知、福岡、鹿児島)**

**LSC (那覇)**

**大型油回収装置関連資材 (福岡)**

**空中油処理剤散布装置 (那覇)**

**大型真空式回収装置 (網走)**

**アウトリガー**

**LSC (塩釜)**

**空中油処理剤散布装置 (横浜)**

**GT-185 (横浜)**

**大型オイルフェンス (横浜)**

## 訓 練 の 実 施 状 況

「排出油等防除計画」等に基づき、関係行政機関、地方公共団体等は、関係機関相互の有機的連携に重点を置いた総合的かつ実践的な訓練を行うこととしており、各管区海上保安本部及び海上保安部署では、大規模油流出事故等を想定して、毎年、関係機関との合同訓練を実施している。

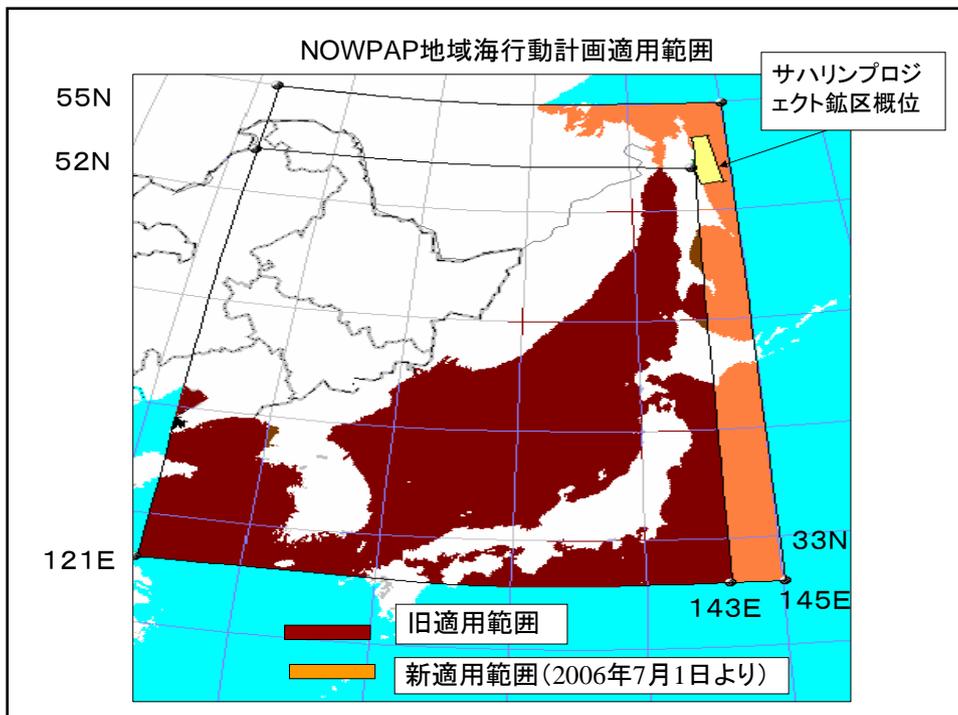
平成20年度油等流出事故対応訓練実施回数 合計127回

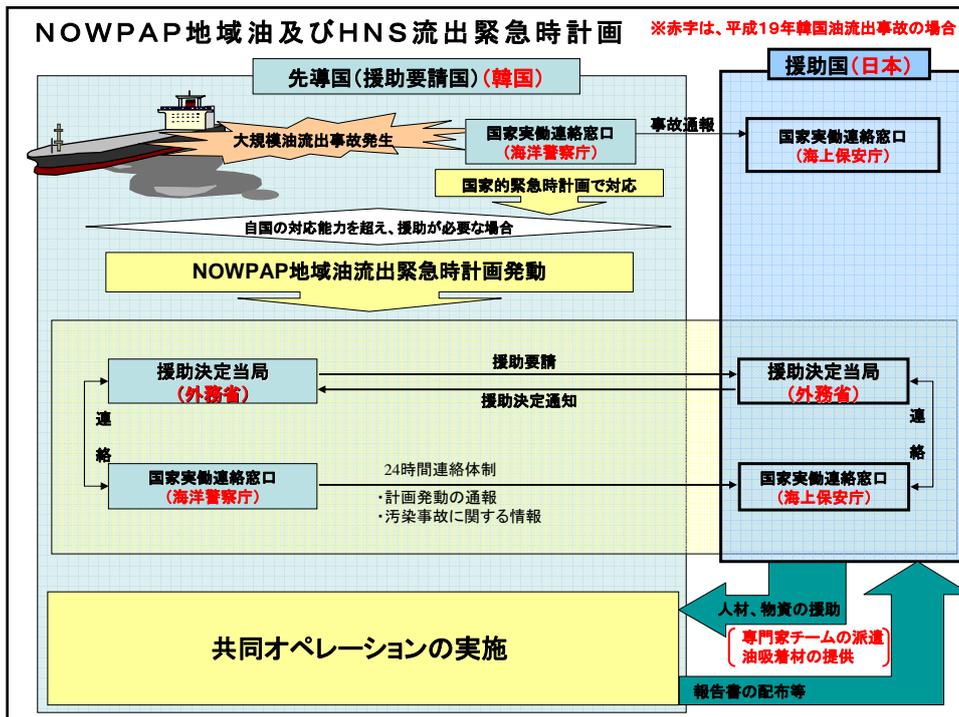
(うち関係機関との合同訓練は、115回実施)

【油防除資機材取扱訓練】



【油防除机上訓練】





### 最近の主なタンカー油流出事故

#### エリカ号事故の概要(平成11年)

平成11年12月8日、フランス北西部プレスト沖約70海里付近にて、マルタ船籍タンカー「エリカ号」が、荒天のため船体が破断した。破断した船首部は、13日未明に沈没し、船尾部は、同日午後5時15分頃、沈没した。積荷の重油約1万4000キロリットル(推定)が流出し、観光地や牡蠣等の養殖で有名なブルターニュ半島の約400キロメートルに及ぶ海岸線に漂着、大規模な海洋汚染と被害を発生させた。

エリカ号  
沈没位置

プレスト沖

## 最近の主なタンカー油流出事故

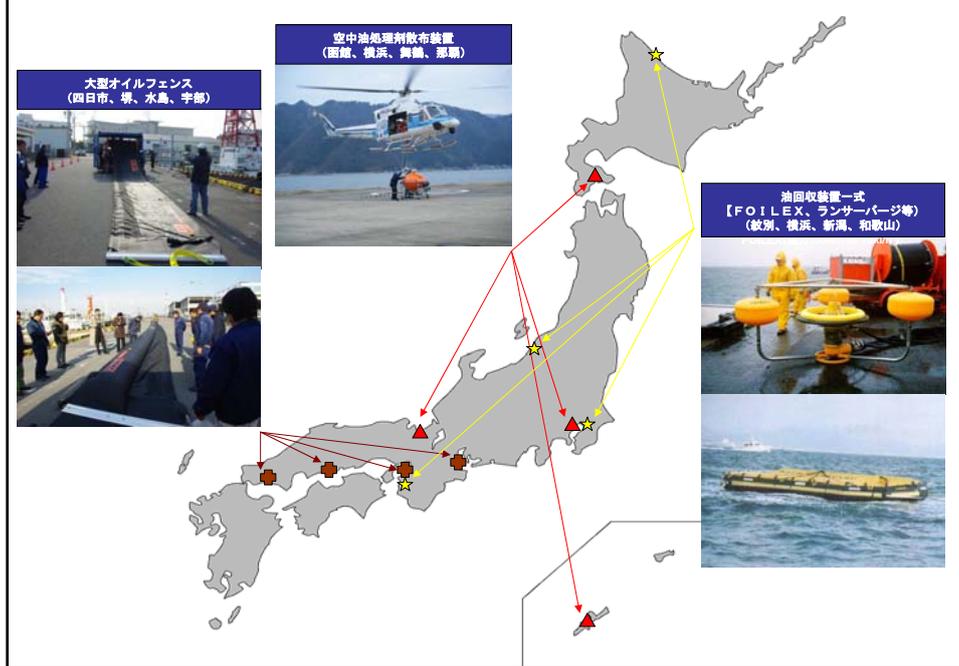
### プレスティージ号事故の概要(平成14年)

平成14年11月13日、スペイン北西部ガリシア州フィンステレ岬の沖合約28海里付近にて、バハマ船籍タンカー「プレスティージ号」が、船体に亀裂を生じ、浸水により航行不能となった。その後、同船は曳航され、徐々に沿岸部から離れたが、19日午前8時頃にガリシア州沿岸南部のシーエス諸島から沖合約145海里付近にて船体が二つに折れ、午後11時45分頃、沈没した。

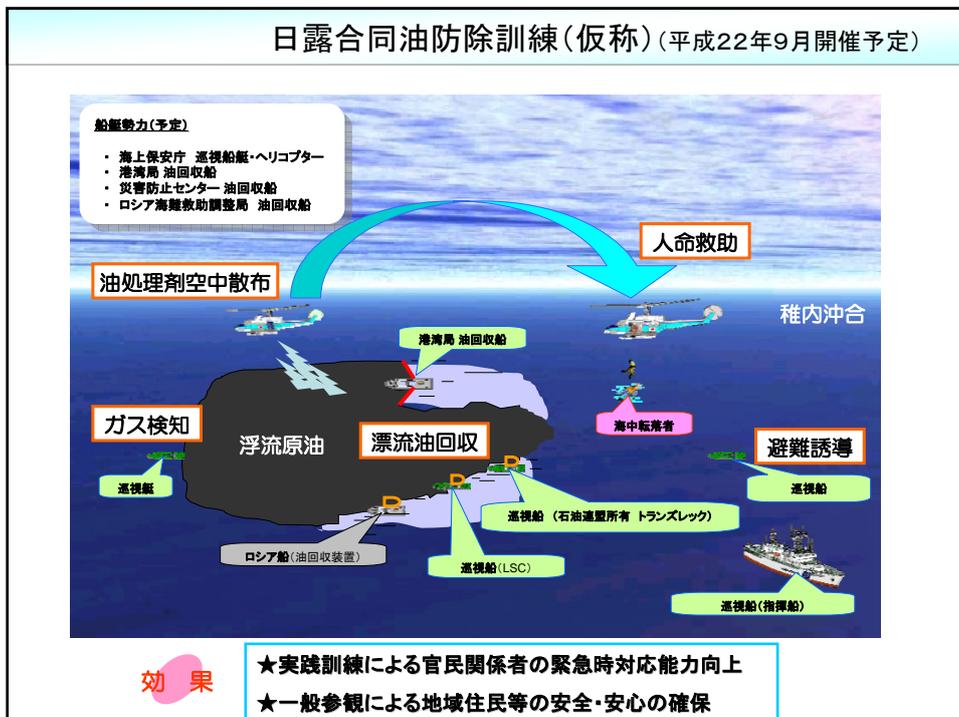
積荷の重油約4万キロリットル(推定)が流出し、スペインのみならず、ポルトガルやフランス沿岸にまで漂着、大規模な海洋汚染と被害を発生させた。



## 油防除資機材の更新等(平成21年度一次補正予算)



## 日露合同油防除訓練(仮称)(平成22年9月開催予定)



サハリンプロジェクト 事故対策フォーラム(仮称) (平成22年9月開催予定)

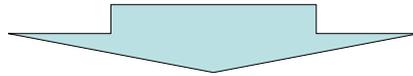
講演



- サハプロの現状と対策
- オホーツク海における影響
- 油等流出事故対応
- HNS (有害危険物質)

討論

- 上記講演を踏まえ、一般人も交えて討論



効果

- ★官民関係者の情報共有・安全意識向上
- ★一般公開による地域住民等の安全・安心の確保



終

